

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0970102604		
法人名	医療法人 北斗会		
事業所名	グループホーム 宇都宮		
所在地	栃木県 宇都宮市 平出町377番地1	電話:	028-689-6600
自己評価作成日	平成 23 年 1 月 30 日	評価結果市町村受理日	平成 23 年 4 月 22 日
※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)			
基本情報リンク先	http://www.t-kj.center.jp/kai/gosip/Top.do		

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク栃木福祉調査センター		
所在地	栃木県 宇都宮市 大和 2-12-27 小牧ビル3F		
訪問調査日	平成 23 年 4 月 8 日	評価確定(合意)日	平成 23 年 4 月 19 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一日の日課を定めず、ご利用者様の生活習慣を知り得た上で「家庭的」「自分らしい生活」を送っていただけるように心がけています。又、四季の様子を味わっていただけるようにリビング内には花を飾ったり、ドライブをしたりして気分転換を図っています。

【(外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人北斗会を母体とした2ユニットの事業所です。敷地内には同法人の病院、介護老人保健施設があり、健康管理について利用者・家族にとっては大きなメリットと安心感に繋がっています。日課のようなものは定めず、家庭的な雰囲気の中で利用者一人ひとりに担当職員を定め個別ケアに努め、「その人らしい生活」「真心のある介護」の理念実践に取り組んでいます。職員の研修は併設の施設と合同で実施し、全職員のレベルアップに努め、質の高いサービスを目指しています。市民センターで行われるコンサートを楽しんだり、地域防災福祉ネットワークを通して地域と交流を持っています。また、中、高校生の体験実習や専門学校の実習を受け入れており、実習生との交流は利用者の楽しみになっています。家庭的な温かみのある雰囲気が漂っている中で、ゆったりと時の流れを感じながら自分らしい生活が営まれている事業所です。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当ホームの理念を復唱し、実践につなげている。又、ホーム会議、ユニットごとのカンファレンス、日々の申し送り等、様々な機会を活かしてホームの理念を確認しながら、自分たちがすべきことを実践につなげている。	「その人らしい生活」「真心のある介護」を理念に掲げ、毎朝全員で復唱して確認し合っている。また、ホーム会議や、カンファレンスなど様々な機会に理念を確認しながら実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	平石地区内にある市民センターで地域の人と一緒にコンサートを楽しんだりしている。又、近所の野菜直売所へ出かけたり、地域の人々との交流を図っている。	自治会、老人会には加入していないが、地区市民センターで行われるコンサートを楽しんだり、地区防災福祉ネットワークでの取り組みを通じて地域との交流に努めている。また、近くの野菜直売所へ出かけたり、買い物をしたりして地域の人々との交流に努めている。	利用者が地域住民の一員として地域と繋がりを持ちながら生活することが大切です。自治会に加入することにより、日常生活に密着した情報を得ながら、日頃から近所の方々との交流が深まることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時や地域の人との交流時に、認知症に対する理解や支援等伝えと共に、協力できることはないかその都度検討している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に参加しているご家族様から夜間避難訓練の実施について意見が出されている。ご家族様の連絡網についても今後検討している。その他、ご家族様の意見感想等を伺い、出来るだけ取り入れ、サービスの向上に努めている。	2ヶ月に1回定期開催している。利用者代表家族、地域住民代表、地区包括支援センターが参加している。家族は毎回数人が参加しており、事業所の行事(防火訓練、家族参加の行事)などについて意見・提案など積極的な発言があり改善に繋げるよう努めている。	運営推進会議は、地域の理解と支援を得るための貴重な会議です。その時々テーマの事前提示とテーマに応じて柔軟にメンバーを選定することで、会議の内容がさらに充実することを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	苦情等による解決困難な事項があった時、宇都宮市役所内の窓口で相談し助言をいただく等して、協力体制の構築に努めている。	事務的な報告などについては法人の担当者が対応している。解決困難なことが生じた場合は、必要に応じて市の担当者に相談し助言をいただくようにしている。	迅速な課題解決には日常的な情報交換と、お互いに顔の見える関係作りが大切です。必要に応じて、現場の責任者が自ら出向き、協力関係を築かれることを期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設時より、玄関の施錠は基本的に行っておらず、身体拘束をしないケアに取り組むため研修会で学び、カンファレンス等でも話し合いを行っている。しかし、ご利用者様のケアに著しく支障をきたす場合や著しく危険が伴う場合はケアプランを作成し、期間・時間を明記している。	職員は身体拘束に関する研修を受けており、カンファレンスなどでも話し合い、具体的な禁止行為を正しく理解している。玄関は施錠せず、見守り寄り添う介護を徹底し、さりげなく声掛けをしたり一緒にいて行くなど安全面に配慮し自由な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常生活において、ご利用者様の自尊心を傷つけないよう言葉遣いやケアの仕方に配慮している。施設内外の研修会やカンファレンス等で、相互学習しあい、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修、あるいは勉強会などで学んだ時には資料のコピーなどし、職員一人ひとりに渡しホーム会議内で伝達をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時契約書とともに重要事項説明書をご説明しサイン、捺印を頂いている。同意書は2通作成しご家族様とホームで一部ずつ保管している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当職員が一人ひとり、配置しており信頼関係を築ける環境作りを目指しており何でも話せる様支援している。	利用者一人ひとりに担当職員を定め、家族との連携を密にし信頼関係を築き、気楽に意見や要望が出せるような雰囲気作りに努めている。運営推進会議にも複数の家族代表が参加し、積極的な発言がありそれらを運営に反映させている。	面と向かっては云い難いこともあり、意見・要望が潜在化することも考えられます。常に問いかける姿勢で、話し易いきっかけ作りを心掛けられることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のホーム会議中堅職員によるGH委員会を設置している。又、フロアなどのカンファレンスを設け随時意見や提案ができる環境作りをしている。朝、夕の申し送り又、ノートなどの活用もしている。	カンファレンスや朝、夕の申し送り、連絡ノートを活用し職員が意見や提案が出せるようにしている。各フロア毎の話し合いで解決できるものがほとんどであるが、内容によっては、ホーム会議や、GH委員会で検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の規定により給与水準は定められている。一日の業務が勤務時間内に終わるよう勤務状況を把握し、職員とも話し合いながら業務改善に努めている。又、やりがいのある働きやすい職場となるよう職員間の報、連、相を推進し環境を整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症、高齢者全般、地域内での共通している研修会へ全職員が参加できるよう調整手配をしている。又、同法人内の一ヶ月に一度の研修会にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域では平石地区防災福祉ネットワークを通じ各施設の協定を組んでいる。防災訓練又、地域内の認知症家族会への参加も取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常にご利用者様の様子を観察し表情など見逃さずすぐに対応出来る様配慮している。又、時間を作り定期的に個別ケアを取り入れている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の方が話しやすい環境を作り些細な事でもお話し不安な事等お伺い出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様の状態によりその方にあったサービスを提供出来るようケアマネジャーや併設施設の相談員に助言を求め支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物干し、たたみ、食器拭き等一緒に行い季節ごとに飾りつけ等も同じ立場で行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、ご家族様に近況報告のお手紙をお渡しし、変化があった時はお電話ですぐにお知らせしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人の来所は歓迎している。お好きな場所でお茶をしながら談話されており、又、ご家族様に協力して頂き外出を勧めている。	家族以外の来所者は少ないが、利用者の好む場所で話が出来るよう配慮している。馴染みの店での買い物などの希望があれば職員が同行したり、家族に協力を依頼している。正月、盆の一時帰宅、外出を勧め馴染みの関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人と同じテーブルになる様に又、気分転換にと、席の移動を行い皆様が仲良くされる様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退院された時は、ご家族様のご了解を頂いて病院や施設にご利用者様と一緒に伺っています。地域の方々と情報交換の為に二ヶ月に一度、運営推進会議を開催し出席頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員が中心となり、ご利用者のホームでの生活に対する希望や要望などをその都度伺い把握し情報を共有している。又、ケアプランにつなげて支援している。個別ケアも行い、ご家族様やご利用様に喜ばれている。	担当職員が中心になり日常のコミュニケーションや日々の行動、表情から利用者の思いを汲み取り、暮らし方の希望など訴え掛けてくるものを受けとめている。情報はカンファレンスなどで共有しケアプランに繋げて支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人様、ご家族様又は利用している事業所等などからの生活環境など詳しい聞き取りを行っている。又、ご家族様面会時その都度、情報交換している。手紙やお電話でもご連絡し常に情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタル測定し、排泄、食事を確認し又、入浴する前のバイタルを確認し健康状態を把握している。一日の日課は特に定めず、ご利用者のペースで生活出来るよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様、ご家族様それぞれにご希望を伺い職員はカンファレンス等で意見を出し合った上で介護計画書を作成している。変化が見られた時は随時、介護計画書を作成している。作成した介護計画書はご家族様に提示し、承諾を得ている。	個別の介護記録を基本にケアカンファレンスで、日頃から聴いている本人・家族の希望と併せて担当職員、ケアマネが意見を出しあって介護計画を作成している。3ヶ月ごとに見直しを行なっているが、変化があれば随時見直しをしている。変更した介護計画書は、本人・家族に提示し承諾を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の介護記録にホームでの日々の様子や介護計画書に沿ったケアの実践、対応の仕方や気づいた事等を記入している。(フォーカスチャージング様式)記録をもとに職員間での情報を共有し、ケアの実践、介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設病院の定期受診を通じて医師、看護師、事務スタッフ、管理栄養士等がご利用者様の状況を共有している。また併設施設の相談員等とも連携し、ご家族様には必要に応じた介護サービス情報を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の中学生の職場体験実習を受け入れしたり、近所の地産販売所へ散歩しながら買い物へ出かけたりしている。他の施設より花の苗を購入し花を植えて楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者様、ご家族様と相談のもと、主治医を個別に決定している。原則的に受診についてはご家族様に、ご協力頂いている。場合によっては職員も同行させて頂いている。	隣接している法人の病院が協力医であり、利用者・家族の希望を尊重して決めているが、全利用者が入居と同時に協力医へ変更している。月1回定期的に事業所に往診があり、医師、看護師、職員も利用者の健康状態を共有している。急変事のみならず日常的な健康管理も対応でき、大きなメリットと安心感に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設病院の医師、看護師とシルバーホームの介護職員とも24時間連絡可能である。病院が敷地内にあるためご利用者様の状態に変化が見られる場合には随時、看護師に相談し助言、支援をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	他設医療機関においては、病院関係者と早期退院に向け話し合いを行っている。又、他院転院時はご家族様の不安が軽減できるよう、医療機関と連携体制を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	カンファレンスを行い、ご利用者様の現在の様子を話し合い、その際重度化した場合を想定した話し合いも行っている。ご本人様、ご家族様の希望を伺いながら、主治医や看護師に随時状態を報告、相談し、状態に応じたアドバイスをを行っている。	契約時に事業所の方針について説明し同意を得ている。カンファレンスで重度化、終末期を迎えた場合を想定した話し合いを持ち個々の変化に備えての方針を全職員が共有している。早い時点で利用者、家族の意向を確認し、主治医に随時報告し対応している。	職員間で重度化、終末期を迎えた段階の対応について話し合いを持ち、全職員が共有されている内容の明文化と同時に、夜勤時の突然の出来事などにも冷静に対応出来るよう、全職員が研修を積んでおかれることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	宇都宮シルバーホーム等の研修会に参加し応急手当、初期対応の訓練をしたり、先輩から後輩へケアの仕方を教えている。併設病院の医師、看護師と連携を図るためマニュアル化している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練を実施している。毎月10日にホーム内の防火自主点検を行っている。又、敷地内3施設合同防災訓練時には、地域住民等、平石地区防災福祉ネットワークの方々も参加しており、地域との連携を図っている。	避難訓練は事業所単独と、3施設合同の2回実施している。事業所は夜間を想定した避難訓練、消火器使用の実演などを行っている。合同の訓練は地域住民、地区防災福祉ネットワークの方々や消防署の協力を得て実施している。月1回自主防火点検を行っている。	夜間は各ユニット1名の勤務体制であり、夜間を想定した避難訓練は重要です。繰り返し訓練を行い全職員が誘導方法を熟知することが重要です。特に2階の階段を使用しての避難方法は関係者と早急に再検討されることを期待します。防災グッズ(非常食・飲料水・頭巾など)の常備にも期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様のご意見に対し、しっかりと耳を傾け、受容する姿勢をとっている。言葉かけや対応の仕方には、ご利用者様の自尊心を傷つけないよう心がけ人生の先輩として接している。又、個人情報の取り扱いはスタッフ全員が秘密保持に努め、さらに法人内の研修等うけている。	利用者一人ひとりに対して人生の先輩として人格を尊重し、尊敬の念を持って接している。誇りやプライバシーを損ねないように言葉遣いには常に気をつけ受容する姿勢で対応している。話しかけは、自己決定がしやすいように同じ目線で少し横から話しかけるよう心掛けています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの思いや暮らしの希望、意向の把握に努めている。信頼関係を築きご利用者様の意志を把握出来るような声かけ、支援を行い、ご家族様からもご利用者様の情報を得て、希望や意向を汲み取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の活動予定を細かく決めていない為、その都度ご利用者様の希望や要望を伺い職員間で連携をとっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた衣類や化粧品石けん等はそれぞれ愛用している。又、いつでも使用できるように設置しており、産毛の手入れ等実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を利用しご利用者様の好みに合わせている。又、誕生日には好きなメニューを提供している。外食の機会を設けたり飲み物は数種類用意しメニューの中から選んで頂いている。	栄養士の作成した献立により、利用者の好みや体調に配慮し職員が交代で調理している。飲み物は好きなものを選べるようにしている。誕生日にはケーキや好きなメニューで楽しんだり、時には敷地内のレストランで外食を楽しんでいる。職員と一緒に自分の食器の後かたづけをしている利用者も見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは管理栄養士が作成したものを使用し温度版にて食時量チェックしている。又、管理栄養士による栄養指導が月に一度あり一人ひとりの状態や習慣に応じて支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、起床時、就前にはうがい、歯磨きを行っている。うがいはうがい薬を使用し口腔内の殺菌、消毒、口臭除去に努めている。就前には義歯洗浄消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個人の排泄パターンの把握に努めている。ご利用者様一人ひとりに合わせ、声かけ、誘導、見守りを行っている。必要に応じてパット、オムツの使い分けをしている。	綿パンツの利用者もいるが大部分がパット、リハビリパンツを使用している。職員は個人の排泄パターンを把握しており、その時々表情・仕草などからも察知しトイレ誘導を行い自立排泄に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ラジオ体操を行い、運動する時間を作っている。便秘予防の為に食物繊維の多い食材を取り入れたり、乳酸飲料を提供している。又、便秘傾向の方には、牛乳を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご利用者様の生活リズム、体調、ご気分に合わせて声かけをし入浴剤を用いながら、希望された時間に入浴して頂いている。	毎日入浴可能で、利用者の希望する時間帯(午前・午後に分けて)に入浴している。時には夜間の入浴にも対応している。入浴剤を入れたりして、快適な入浴を支援しているが、入浴を好まない利用者には声かけのタイミングをずらしたり、誘導方法を工夫している。担当職員と1対1での入浴の場合はコミュニケーションの重要な場にもなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活のリズム、日々の状態の把握に努め、その日の状況に見合った休息の仕方に配慮している。希望により足浴を行ない、安眠できるような工夫も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示に従い、服薬介助をし、スタッフ間で常に状態観察に努め、変化のあった場合は、必ず医師に報告し、対応している。又、薬局にて薬の作用副作用の情報提供を受け、薬についての理解を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴、身体状況に合わせて、日常生活の中での役割を担っていただいている。また、季節を感じる食事や話題の提供、外出などを行い、気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日にご利用者様の希望により、周辺の散策に出かけ季節を感じ取っていたり、少人数でショッピングモールへ出かけ思い思いの買い物や食事を楽しんでいただくなどの個別ケアをしている。又、ご家族様にも面会時に一緒に散歩していただくなどの働きかけも行っている。	利用者一人ひとりのその日の希望にそって個別支援をしている。天気のよい日には、事業所周辺の散歩や、野菜直売所に出かけたりしている。近くのショッピングモールへは車で出かけ、思い思いの買い物や好きな食事をしたりしている。訪問時には家族にも散歩などを一緒にしていただくよう働きかけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理については、ご本人様が理解し所持される方もいれば、不安になって所持できない方もいるので、ご家族様と充分相談し、希望によっては当ホームでお預かりしている。個別ケアなどで外出する際には、ご本人様が購入し支払えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様がご家族様の方に連絡がしたいと希望される時は、ホームの電話を利用してかけたり、携帯電話を所持している方には、かけたい時に相手先を確認している。又、俳句の出品や家族への手紙などは、宛名の確認や投函の代行をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様がくつろぐ明るく温かいリビングや玄関には、ご利用者様が自ら植えられた鉢物やミニ菜園を置いている為、水かけをしながら手入れをして下さっている。又、廊下・リビングの壁には、年間を通して行事の写真を展示し、季節感を出している。	玄関前やリビングには利用者が植えた鉢物が置かれ、水かけなどの手入れをしている。陽がよく入り明るいリビングには、利用者の作成した桜の花の絵など季節を表した作品や、行事の写真が掲示されている。畳のスペースにある掘炬燵やソファでテレビを見たり、思い思いのゆったりした生活をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中、陽が射し明るく暖かな環境でくつろげる場所にソファを設置している。隣のスペースには掘りごたつがあり、一人、少人数でくつろげる場を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にご家族様と相談の上、使い慣れた家具、又は仏具なども持参されている。一人ひとり自分らしい部屋で穏やかに過ごして頂ける様に支援している。	居室のドアには飾り付けをした表札をかけた自分の部屋が分かるようにしている。家庭での生活と遊離しないよう愛用していた馴染みの物を持ち込んでいる。手作り作品や家族の写真、人によってはご主人の位牌に花を飾るなどしてその人らしい居室となっている。希望に応じてベッドの位置を変更するなど本人が居心地良く過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に表札をつけたり、トイレには文字やマークで目印をつけたり、浴室には暖簾を下げるなどしてわかりやすいように工夫している。又、ご利用者様と一緒に作成した日めくりカレンダーをリビングの壁に下げ、目印が認識しやすいようにしている。		